

発達保障学校集中講義

実践にいきる記録の書き方

実践記録って、どう書いたらいいんだろう？ その悩みに応えたい！ この集中講義は初任から中堅までの方を対象に、演習や討議を交えながら、実践記録の書き方を学びます。



目標は……

実践がおもしろくなること、子ども（利用者）の真実に近づく=子ども理解が深まること！

日程と講師

1回目 7月 9日（日）2コマ

講師：松島明日香（滋賀大学）他，人間発達研究所運営委員

2回目 10月 1日（日）2コマ

講師：竹澤清（中部学院大学）

3回目 11月19日（日）1コマ

講師：竹澤清（中部学院大学）

※1コマ3時間

会場は人間発達研究所研修室を予定しています（受講人数によって変わることがあります）。

実践記録を書くとは「客観的事実を正確に書き記すこと」だけではありません。子どもや利用者の多様な姿や実践に込められた実践者の思いを記述するためには、記録者一人ひとりの豊かな眼差しと“言葉”が必要になります。どんな実践にも意味があり、エピソードがあります。大切なのは、実践を通して見せる子どもや利用者の姿に記録者なりの意味づけがなされ、そのような姿を導いた実践自体への面白さや価値に気づくことではないでしょうか？ また、その姿に意味づけがなされるためには、それをどのように表現するのか、目にした現象を記録者なりの言葉で語る力が必要となってきます。第1日目の演習では、実践記録を書く上で必要となる「子どもの姿の見方、語り方」を自分なりに見つけていくことを目的とします。

第2日目・第3日目は、いよいよ実践記録の実際についての学習になります。（松島明日香）

お申し込み・お問い合わせ：人間発達研究所

〒520-0052 大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

Tel/Fax 077-524-9387 Email j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/> ホームページからも申し込みできます！

